

平成29年6月14日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

社会文教常任委員会  
委員長 室井 正行



委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第78条の規定により、次のとおり報告します。

記

1. 調査事件 平成28年第3回定例会  
発議第11号 地域福祉に関する事務調査について

2. 調査期日

平成28年 9月26日 調査計画の検討  
11月22日 調査の先進地視察について①  
12月 6日 調査の先進地視察について②  
平成29年 2月16日 調査の具体的な内容の精査  
3月 2日 地域福祉の現状と課題について  
・社会福祉協議会とのかかわりについて (町民福祉課)  
・独自の高齢者対策について (健康推進課)  
3月28日 岩手県雫石町視察調査  
4月19日 地域福祉の現場 (かあちゃん食堂) を視察  
4月20日 視察調査のまとめ  
6月 2日 調査報告書協議

3. 調査の目的・結果

～生涯活躍のまちづくりをめざして～

・地域福祉とは、地域で共に暮らす人々が、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、お互いに支え合い、助け合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域社会を皆で築いていく取り組みである。

・町は、平成29年度を初年度とする5年間の第4期地域福祉計画を策定し、現状と課題、具体的な取組等を示している。しかし、地域の様々な課題や、国の社会保障制度改革等により、地域福祉政策の行政運営は一層多様化され、難題と困難が十分予知できる状況である。そして、町も従来型の福祉政策の延長上を取り組むのではなく、予想される大きな課題に対し、実現可能な福祉行政を推進することが急務である。



- ・ 少子高齢化、人口減少が続く中、地域でどう助け合い、生活可能な環境づくりと福祉政策の組織体制の見直しや改革について、早期に図る必要がある。
- ・ 今後の福祉政策の中核は、「対処する」から「予防する」、「与える」から「共に利益を生む」、その方向性を基本理念とすべきである。
- ・ 高齢者には、生涯生活できる仕組みづくりの環境整備と体制の確立、支援方法の検討着手が急務である。
- ・ 当委員会は、行政と社会福祉協議会が連携し、日本の先駆的な福祉業務を遂行している「岩手県雫石町」、「社会福祉法人雫石町社会福祉協議会」と、地区の方々と協働で運営し身近な交流の場を作っている「かあちゃん食堂」を視察・研修を行った。町の福祉計画、予想される課題、対処すべき方針等を得ることができ、大変有効で貴重な視察研修であった。

以上のことから、江差町の地域福祉の取り組みを一步でも二歩でも進めるべく、次のとおり意見する。

## <意見>

### 1. 視察研修から見えた課題

#### (1) 雫石町社会福祉協議会

雫石町社会福祉協議会は、長年の福祉事業の蓄積と実績から、全国有数の事業所として高く評価されている。地域福祉事業、介護保険事業、保育園事業を行い、学童保育の運営も委託され、行っている。

地域福祉事業の主な内容は、町内29箇所での「ふれあいサロン事業」、年に4回開催し、うち1回は男性が昼食を作る集合型の「一人暮らし老人昼食会」、ボランティアによる「おでかけ援助サービス」、町内64箇所で開催される情報提供を行う座談会「お互いさま情報交換会」等、高齢者のニーズに沿った多様な事業を実施している。

視察では、生活保護に依存しない、させない支援事業の対応、高齢者は宝であり良い資源、そしてよく働くこと、社協職員は熱血職員が多いこと、行政・議会に対して要望・対話を続けていること、介護保険事業を大きく展開しないこと等の説明があり、そこには、社会福祉協議会の職員の地域福祉を支えようという強い思いがあった。

#### (2) 江差町「かあちゃん食堂」

かあちゃん食堂は、平成17年から取り組みが始まり、週1回、当初から変わらず1食300円で食事を提供し、地域の交流の場となっている。

視察では、地区内住民に限らず、高齢者に限定せず、町内の多くの方々が利用している。地区内住民の安否確認や行動をお互いに把握する等、情報交換の場となっており、極めて重要だと認識した。

各地域での特性を考慮した拡大を期待し、行政との連携が今後必要である。

### 2. 社会福祉協議会の在り方と位置付け

社会福祉協議会とは、国や自治体の福祉制度では救いきれない地域の課題解決に取り

組み、その連絡調整役を担うとされている。

江差町の社会福祉協議会の現状は、介護保険事業を中心に事業展開しており、本来の地域を支える団体になっていない。地域福祉政策の推進は、行政のみでは出来ない。雫石町社会福祉協議会の実績と実態を学び、町と社会福祉協議会の関係を再検討、再構築する必要がある。

#### <約2年間の社会文教常任委員会としての総括>

本委員会は、2カ年の任期における事務調査として

- ・公園の有効活用について
- ・江差町の文化の発信及び普及啓発について
- ・地域福祉について

の3事件に関し、調査を行った。

町議会議員改選後、2名の女性議員を含む5名で社会文教常任委員会が構成され、何を調査事件とするか戸惑うことがあったが、この2年間、「江差町の文化の発信及び普及啓発について」に加えて、小林委員提案の「公園の有効活用について」、小梅副委員長提案の「地域福祉について」を、最優先調査事件として調査してきたところである。

しかし、委員会報告書に対する行政側の対応はどうか、調査事件に対し真摯に向き合い、検討、議論がされているのか、大きな疑問を抱くところである。

そして、今回報告した「地域福祉について」は、先述のとおり委員の地道な調査活動の結晶として報告させて頂いた。行政が今後どのような対応をしていくのか、注視していくことを申し上げ、総括とする。

以上